



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2007.12.03

No. 31 - 19

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5 - 11 - 4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

米軍戦闘機による日本の民間航空機の追尾問題で 当該機の乗客・乗員に対し米軍代表謝罪表明

**ICAO規定違反とFAAとの情報交換不足を認める。また、
航空3団体に対して再発防止策を講じることを約束。11月15日**

2007年8月8日にグアム島南方上空で発生したJAL ways 772便に対する米軍戦闘機の追尾問題で、日乗連は安全会議、航空連の産別団体とともに、9月27日に外務省ならびに国土交通省に対して米軍やFAA等の関係機関への調査と再発防止策を提示するよう要請を行うなど様々な取り組みを行いました。

しかしながら、約1ヶ月経った後も両省や会社からは一切の対応が得られなかったことから、10月26日には米国大使館を訪問して、シーファー駐日米国大使宛に事実関係の調査と再発防止策を講じるよう航空3団体の要請書を手渡しました。米大使館側の素早い対応と調査の結果、既に9月7日には本事件に関する米軍の報告書が公表されていることが判明し、3団体宛てにこの報告書が送付されました。

この米軍の報告書を受けて、安全会議、航空連、日乗連の航空3団体は、11月15日に再度米国大使館を訪れて、米軍に対して10項目、FAAに対して4項目の質問を用意し、関係機関に対する質問への回答と再発防止に向けた取り組みを求めました。

11月15日の交渉の席には在日米軍第5空軍司令部の代表者や米国大使館空軍随行員(空軍大佐)等の米軍関係者が同席され、この問題に対する米国側の対応の早さが伺えました。またこの交渉には外務省の北米局担当者も同席されました。

冒頭、米軍代表者から口頭で当該機の乗客・乗員に対して謝罪表明(apologize)がありました。また航空3団体側からの質問に対しては、各項目に文書回答を示し、同時に以下のような見解が示されました。

「今回のインシデントの原因は米軍機がICAO規定に反する目視確認飛行方式にあったこと、FAAと米軍とのコミュニケーションが不足していたこと。今後再発防止に向けて2度とこのような事態が発生することのないように対応策を講じていく」

また、米大使館側からこの事件で日本の行政が一切応答・対応を行っていないことに驚いているとの感想が述べられました。米軍代表者は「今回の様な事態には素早い対応が重要。何故なら貴重なデータが時間と共に失われていくからだ」とコメントしました。

日乗連は本事件に関する航空3団体の質問に対するFAAの回答や、FAAの調査報告書を求めるなど、今後とも軍用機の追尾により発生した民間航空機の安全上極めて重大な事態が2度と発生しないよう、今後とも取り組みを行います。

11月15日の記者会見翌日の朝刊の記事を次ページに掲載していますのでご参照下さい。



民間機追尾

米軍、異例の謝罪

国際規則違反認める

日本の民間機（JAL WAYS772便）が八月八日、グアム島南方上空で、米軍の戦闘機に追



記者会見する日本乗員組合連絡会議の山崎秀樹議長（右から二人目）ら。15日、国土交通省内

尾された問題で十五日、米軍側が国際民間航空機の所屬を確認する「など」と口頭で異例の謝罪をしました。

米大使館に要請した航空安全推進連絡会議（安全会議、中次洋議長）など三団体へ答えたもの。772便（オーストラリア・シドニー発）は、グアム島の南方上空で、米軍F15戦闘機二機に追

尾され、異常接近を回避するTCAS（航空衝突回避防止装置）のRA（衝突回避操作指示）が二回出されました。

国際規則では戦闘機が識別不明機を確認するさいは（五時）（約九千び）離れ、千五百び（約四百五十び）の高度間隔を保

朝刊 '07.11.16 赤旗

戦闘機接近で 米空軍が謝罪

グアム上空

グアム島付近の上空（高度約1万1580び）で8月、シドニー発成田行き（乗客乗員414人）に、訓練中の米軍戦闘機が接近した問題で、

在日米第5空軍司令部のマイケル・ビショップ・

航空機関係部長らが15日、日本乗員組合連絡会議（日乗連）の関係者らと東京の米国大使館で面会し、謝罪した。文書でも

「再発防止に努める」とした。米軍機による民間機追尾の事例で、米側が非を認めるのは異例だ。

日乗連によると、米側

は、管制との連絡が十分だったためにジャルウェイズ機を未確認機ととらえ、後方から約600びまで接近して確認する事態になったことや、国際条約で定められている接近の手順に従わなかったことを認めた。

朝日新聞 '07.11.16 朝刊

米戦闘機 JAL系機に急接近

「所属確認するため」と謝罪

グアム島付近の太平洋上空で今年8月、JALウェイズ機が米軍戦闘機の追尾を受け、緊急回避するトラブルがあり、米軍側は15日、「戦闘機の接近方法に非があった」などとして、航空労組連絡会などの代表者に謝罪した。

労組や米空軍の調査報告などによると、今年8月8日午後、同島付近を飛行していたシドニー発成田行き

JALウェイズ772便（ボーイング747-400型機、乗員乗客414人）に、米軍のF15戦闘機2機が後方から接近。JALウェイズ機は衝突防止装置（TCAS）が作動したため、降下して回避したが人はなかった。

グアム付近では当時、米軍の訓練が行われており、F15戦闘機はJALウェイズ機の所屬を目視で確認するために接近したという。